

砂防関係事業に係わる景観形成のあり方検討委員会の概要

開催経緯

美しい国づくり政策大綱の決定や景観法の制定等が行われ、従来、施設機能を優先して計画・設計されてきた砂防施設等においても、景観の一部として、周辺景観との調和を必要とされている。また、砂防事業の展開される地域は、豊かな自然の残された貴重な場所である場合が多く、土砂の活発な移動が景勝地を形成している場合もある。本来、砂防施設等は、土砂災害を防止することを目的として設計されており、住民にも安心感を抱かせるデザインとなっている。

しかし、これまでの砂防施設等は、想定外力に抵抗する工作物としてデザインされており、周辺の景観との調和といった観点からのアプローチは少なかった。また、都市の拡大に伴い、住宅が山間部に入り込んできており、都市部の建築物や工作物と同様に地域住民の生活の場と密接な関係を持つようになってきた。

そこで、砂防関係事業や景観に関する学識経験者から構成される検討委員会を設置し、「砂防関係事業における景観形成ガイドライン」の策定に向け、砂防施設等の計画・設計における「景観形成の基本的考え方と景観形成の進め方」について検討を行った

委員名簿

委員長	大久保 駿	社団法人 全国治水砂防協会理事長
委員	青木 奈緒	作家
委員	石川 芳治	東京農工大学大学院教授
委員	腰原 愛正	長野県大町市長
委員	寺本 和子	豊橋創造大学短期大学部教授
委員	中田 聡一郎	写真家
委員	堀 繁	東京大学アジア生物資源環境センター教授

(敬称略 役職名は当時)

開催日

第1回	平成17年3月2日
第2回	平成17年3月24日